

新型コロナウイルス感染症ワクチン

病院挙げて10万回以上を接種



広島大学東広島キャンパスで行われた学生、教職員への接種

大規模会場や職域に医療従事者派遣



広島市の大規模会場サンプラザで
ワクチンを接種する看護師

ワクチンを調合し注射器に入れる薬剤師



新型コロナ対応 医療資源フル活用

広島大学病院は新型コロナウイルス感染症へ、さまざまな対応を行っています。感染者への最後の砦として、最重症患者を受け入れ治療、患者拡大の中で中等症患者を受け入れる病床も設置。またワクチン接種が始まってからは積極的に協力し、広島市での大規模接種、東広島市との共同での学生、教職員への接種、企業の職域接種にも対応するなど、10万回以上の接種を実施してきました。まだまだ感染の収束は見通せない状況の中、本院では引き続き、持てる医療資源を最大限活かして、先進的な高度医療を担う特定機能病院としての役割を果たすために、関係機関及び地域の医療機関と連携して、取り組みを進めていきます。

ワクチン接種

歯科医師も研修後、打ち手として参加



高齢者へのワクチン接種がスタートし、打ち手の確保が大きな課題となっていた5月中旬に、いち早く歯科医師を派遣する方針を表明しました。発表会見には木内良明病院長、津賀一弘副学長（医系科学研究担当）、谷本幸太郎歯学部長、柴秀樹主席副

病院長、大毛宏喜副病院長（感染症科教授）が出席。広島大学病院や大学院医系科学研究科、歯学部にも所属する歯科医師を派遣する方針を発表しました。木内病院長は「国難ともいえるコロナ禍に対し、広島大学として主体的に取り組み、担い手不足に悩む自治体などに積極的に協力していきたい」と述べました。歯科医師でもある津賀副学長は「ワクチン接種を迅速に進めるため、国立大学の歯学部として率先して貢献していく決意です」と力を込めました。

4月末に厚生労働省が歯科医師のワクチン



接種を特例として認める通知を出したのを受けた措置です。ワクチンの基礎知識やアナフィラキシーの対応などをオンライン学習した後、感染症科の医師が講師となって実地研修もしました。接種の方法や注意点などの説明を受け、模擬装置を使って上腕への筋肉注射を打つ実習をしました。研修は5、6月に行われ、180人が受講しました。

6月中旬からは広島市が行う大規模接種会場として広島サンプラザ会場（広島市西区）がスタート。本院が運営を担い、医師、看護師、薬剤師、事務職員などを派遣。問診、接種、経過観察、誘導などをスムーズに進めました。医師による問診を終えた高齢者は、椅子が並んだ接種会場に着席。打ち手の看護師らが次々に移動して接種しました。そのまま座って経過観察するため、移動が少なく好評でした。出足は鈍く人数は伸び悩みましたが、接種券が届き始めた7月からは連日2000人が訪れ、8月15日まで土曜・日曜の計6日間で接種しました。



6月下旬からは、東広島市と共同で東広島キャンパスの西体育館を会場にワクチン接種もスタート、大学病院から医師、歯科医師、看護師、薬剤師等毎日約20人を派遣しました。接種対象は、広島大学に在籍する学生、教職員、同居家族などの希望者。その後、対象を近隣の大学の学生・教職員、東広島市内の私立学校、県立高校の教職員、同市内の警察官や市職員などにも広げて実施しました。また同市、東広島商工会議所と共同で、企業従業員、市内の小中学校の教職員らにも接種を進めました。

このほか、広島県がふくやま産業会館「ビッグ・ローズ」（福山市御幸町）に設置した大規模接種会場に、6、7月の計4日間、1日あたり歯科医師5人を派遣するなどしています。

ワクチン接種後さらに予防策継続を

感染症科・大毛宏喜教授の話

ワクチンは感染予防策の1つです。ワクチンだけでなく、マスクや換気も大切です。一つ一つの対策が感染リスクを10分の1に下げるとしたら、4つ組み合わせれば感染リスクは1万分の1に下がります。私たちが目指すべき感染予防策はそのような考え方に基づくべきです。ワクチン接種を終えても油断せずに感染対策に努めていただきたいと思います。

ニュースアップ

小児がん啓発へ広島城を黄金色にライトアップ



ゴールドにライトアップされた広島城

小児がんについて知ってもらおうと、広島城が黄金色に輝きました。9月は「世界小児がん啓発キャンペーン:Global Gold September Campaign」月間で、著名な建物などをゴールドにライトアップします。全国の小児がん専門家によるNPO法人「日本小児がん研究グループ(JCCG)」は、このキャンペーンに協力、日本でも今回初めて取り組みました。

中四国唯一の小児がん拠点病院である広島大学病院も呼びかけに応じ、村上農園の協力を得て9月9日から1週間、広島城をライトアップしました。9日の点灯式では、本院小児科の岡田賢教授が「新型コロナウイルス感染症の影響で面会も制限されるなど難しい状況の中、ゴールドの光は小児がんと向き合っている子どもたちやそのご家族の励ましとなると思います」と話し、村上農園の村上清貴社長は「当社は、誰もが健康に過ごせる社会の実現を目指し、高成分野菜の生産やがん予防研究の支援に取り組んでおります。この度

のキャンペーンをきっかけに、小児がんの子どもたちや支えるご家族、医療従事者の皆さまへの支援の輪が広がることを願っております」とあいさつしました。

この後、広島大学病院の小児病棟とオンラインで中継を結び、入院中の子どもたちの「点灯」と言う声で光がとまりました。子どもたちは「とてもきれい」と喜んでいました。全国でも東京スカイツリーや東寺五重塔（京都市）など14カ所がライトアップされました。

白血病や脳腫瘍などの小児がんは10～14歳の子どもの死因の第1位で、年間の新たな発症は約2000～2500人。治療法の開発や、治療を終えた子どもがその先の長い未来を安心して健康に過ごせるようなサポート体制の確立など、課題は山積しています。キャンペーンはこれらの実態を広く知ってもらいたいと、実施しています。



協賛いただいた
村上農園の村上社長と
小児科の岡田教授

「日々感謝」安芸府中高生から激励フラッグが届きました

医療従事者への激励フラッグ(横177cm、縦91cm)が9月14日、安芸府中高校から広島大学病院へ届きました。診療棟玄関入ってすぐの右側衝立に飾っています。「日々感謝」と大書され、四つ葉のクローバーをあしらっています。ハートマークのカードには「いつも守ってくれてありがとう」「これからも頑張ってください」など感謝と激励のメッセージが並んでいます。「コロナがなくなりますように」との祈りも。大きな励みになります。ありがとうございました。

安芸府中高の学園祭(银杏祭)で生徒会が呼びかけ、美術部がデザイン、書道部が墨書し、3年生190人がそれぞれメッセージを記したそうです。四つ葉のクローバーの花言葉は「感謝」「希望」。医療従事者の皆さんに感謝し、コロナのない世界に希望を持って進んでいく様子をイメージしてデザインされたそうです。



栄養管理部
情報

～果物について～



担当した管理栄養士

果物がおいしい季節になりました。果物には体に必要とされる栄養が豊富に含まれています。ビタミン・ミネラル・食物繊維が夏の暑さで疲れた体を回復させ、冬に向かって体調を整えてくれます。

◆◆◆◆◆ 果物に含まれる主な栄養素とはたらき ◆◆◆◆◆

- ビタミンC・・・皮膚や粘膜の健康維持、抗ストレス、抗酸化作用
- ビタミンA・・・目の働きを保つ
- カリウム・・・高血圧予防(ナトリウム<塩分>の排泄作用)
- 食物繊維・・・便秘予防、発ガン性物質等の体外排泄、生活習慣病の予防

◆◆◆◆◆ 1日200gを目安に食べましょう! ◆◆◆◆◆

～果物200gの目安～



〈おすすめレシピ〉フルーツサラダ

〈材料〉 2人分

- サラダほうれん草……………60g
- ミニトマト……………60g
- キウイ……………40g
- りんご……………40g
- オレンジ……………20g
- ※オリーブ油……………大さじ1
- ※穀物酢……………小さじ2
- ※塩こしょう……………少々

エネルギー:220kcal たんぱく質:2.5g
塩分:0.5g ビタミンC:77mg
食物繊維:4.2g

オリーブ油に含まれるビタミンEは、ビタミンCの吸収を促進します。

〈作り方〉

- ① 野菜と果物は食べやすい大きさに切る。
- ② ※のオリーブ油、穀物酢、塩こしょうを混ぜ合わせておく。
- ③ ②の合わせ調味料を①と混ぜ合わせる。



★食べ過ぎには注意しましょう!

- 果物には果糖と呼ばれる単糖類が多く含まれており、食べ過ぎると中性脂肪の増加や血糖値の上昇につながる可能性があります。
- 果物は短時間でエネルギーになるため、夜よりも朝食または昼食時に摂ることがおすすめです。
- 食事療法を行っている方は、医師や管理栄養士に相談してから食べましょう。

診療科最前線

「矯正歯科」

(診療科長:谷本幸太郎教授)



▶ 診療科の特徴

矯正歯科診療室は、1968年の開設以来、不正咬合の治療に関わる臨床、研究、および専門医の教育を担当し、中四国地方において矯正歯科治療の中核としての役割を担ってきました。顎顔面領域の先天性疾患の治療では、2016年に設立した唇顎口蓋裂総合成育医療センターの運営に参画し、地域や全国の関連医療機関との連携を図っています。顎変形症の治療では、口腔外科との密接な連携により高度な医療を実現しています。また、顎関節症外来では、診療と基礎・臨床両面の研究を行っています。他に、睡眠時無呼吸症候群歯科外来では、2021年度に設立された睡眠医療センターと連携し、睡眠時無呼吸症候群におけるスリープ・スプリント治療と関連する研究をしています。

▶ 患者さんの動向

年間約350人の初診患者さん、12,000人ほどの再診患者さんの診療を行っています。大学病院以外では対応困難と思われる難症例のご紹介が近年多くなっております。

▶ 得意分野

難治性の顎関節症を伴う不正咬合への対応は、30年を超える研究と臨床の実績があります。画像診断を駆使した高精度な診断と、研究成果に基づいたリスクの少ない治療を実現しています。同様に、睡眠時無呼吸症候群の治療も長年地域の中核とし

て行ってきました。とりわけ、小児の睡眠時無呼吸症候群の研究において実績があります。また、唇顎口蓋裂など先天性疾患の治療では、大学病院の特長である充実した専門診療科の連携により高度な医療体制を達成し、拠点病院としての役割を果たしています。一般的な矯正歯科治療としては、特に成長の力を利用した子供の治療に本気で取り組んでいます。

▶ かかりつけ医との連携

矯正歯科診療室の新規患者の70~80%は、かかりつけ歯科医院や地域の医療機関からのご紹介になります。近隣だけでなく、全国の医療機関や矯正歯科専門医療機関のない遠隔地からのご紹介もいただいています。内訳は、手術を伴う顎変形症患者や、顎関節症などの複合疾患を伴う難症例患者のご紹介が増加しています。

▶ 新しい動き

唇顎口蓋裂などで見られる顎口腔の骨欠損に対して、再生医療を応用することは、現行法に比較して患者負担が少なく、より効果的な治療を達成できる可能性があり、基礎研究、前臨床研究を進めています。また、専門医の少ない遠隔地の患者さんにも良い治療を受けて頂けるように、超高速通信技術を用いたデジタル矯正歯科治療に関する研究を行っています。



催しのご案内 (2021年10月~12月)

【第2回】自宅で学べる 肝臓病教室

視聴期間：9月13日(月)~12月12日(日)
内容：肝臓病に対する外科的治療
講師：消化器外科・移植外科医師 黒田慎太郎

【第3回】自宅で学べる 肝臓病教室

視聴期間：12月13日(月)~2月13日(日)
内容：今からできる脂肪肝対策 すぐできる方法をご紹介します!
講師：管理栄養士 長尾晶子

開催方法：肝疾患相談室ホームページからの視聴
(講演動画配信)
URL：<http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>
(「広大 肝臓病教室」で検索)
申込：不要



問い合わせ先：肝疾患相談室 ☎082-257-1541(10:00~16:00)

がん治療を支える患者サロン

肺がんの基礎と治療 10月28日(木) 13:30~14:30

開催方法：ZOOMを用いたオンライン開催
講師：呼吸器内科医師 藤高一慶

がん治療中のお薬とのつきあい方 11月18日(木) 13:30~14:30

会場：臨床管理棟3階 3F4会議室+zoom
講師：がん専門薬剤師 本永正矩

ーおしゃべりは心のビタミンーがん患者おしゃべり会

開催方法：Zoomを用いたオンライン開催
申込URL：<https://forms.gle/xHgn9E6QDSnNMWGs7>
11月30日(火)13時30分~14時30分(申込締切 11月25日)



申し込み・問い合わせ先：がん相談支援センター ☎082-257-1525